

と
万引られてたまるか、と
万引らせてなるか（日本記者クラブ会見レジュメ）

1 万引は社会を腐敗させる

私たちは万引問題に甘い社会に憤っている。その実態を知らなさすぎ、知らせなさすぎ。“たかが”万引との根強い風潮。小売店の営業も犯人や家族の人生も大打撃。将来の社会に暗雲。

- 「まんだらけ問題」の問いかけたもの
- 1年間の被害額は4500億円を超える
- 警察の犯罪認知件数の1割は万引
- 毎年約10万人の犯罪者を作り出す
- 万引が悲劇を生み出す・・・東京駅コンビニ店長刺殺事件 川崎書店事案

2 なぜ万引ははびこってきたのか・・・当機構を生み出した背景

万引問題を刑事事件の処理に委ねてきたつけ

- 万引どころではなかった警察
平成10年以降、犯罪の急増、外国人による新たな手口に翻弄 留置場と刑務所
はいつも満杯 軽微な犯罪に警察の手はかけられない
- 刑事司法制度は万引き抑止に無力
万引き少年にはほとんど空振り
成人も起訴猶予が大半
- “自ら助くる努力”を欠いた小売業者
 - ・ お客様は神様、疑いの目は向けてはならないという思い込み
 - ・ 店の評判を気にして防犯カメラを設置することをためらう
 - ・ 万引きがあると知られたら店の信用がなくなるという不安
 - ・ 利益があれば多少のロスはやむを得ないとの現実逃避
 - ・ 警備業者任せが精いっぱいとの万引問題の理解不足
 - ・ 被害届を持っていけば処理に長時間がかかる。店内で捕捉した万引犯人の引き取りを渋る警察への不満のくすぶり
- 「万引ぐらいやったことあるやろ」は違和感のない表現
平成16年の東京都の調査では万引をぜったいだめと考えない中・高生が4人に1人 捕まっても大したことになるには子どもたちの常識

3 万引問題を巡る最初の転機

犯罪の急増を受けその抑止対策に社会の関心が集まる

- 平成15年12月政府が犯罪対策閣僚会議で「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」を策定し、万引防止も入れ込む
- 平成15年12月都、警視庁、小売業者、学校関係者、弁護士等が第1回の東京都万引き防止協議会を開催
- 平成16年7月同協議会が「万引きをさせないための行動計画」を発表
不審な客には店内で積極的に声掛けすること、捕捉した少年についてはすべて警察・保護者に連絡し子どもに反省の機会を与えることなどを提言
- 平成17年当機構設立
- 変わり始めた小売業者
 - ・ 防犯カメラに対する考え方の変化
 - ・ 声掛け、店内確保をはじめた店舗広がる
 - ・ 本腰を入れた取り組みを始めた書店、スーパー現わる

4 新たな展開を見せる万引問題が示す社会

社会の進歩・変化が万引を変化させ、万引き犯を助けている。とりわけ換金方法の多様化がこれに拍車をかけている。その対策は後手に回り、万引問題解決の流れは作られていない。

- マイバッグは万引犯の味方
- 書店の大量万引事件が示す、万引助長のネット通販（成人）
- 化粧品の組織的万引の実例から見える万引問題の真実（外国人）
- 高齢者万引の顕著な増加と対応の困難さ

5 万引犯罪防止機構は何をしてきたか

当機構の強みは小売業者と警察等行政機関との太いパイプ。これを利用した総合力形成のてこ。10年を経て、万引問題の情報集積地となったこと

- 二つの調査
- 6つの提言
- 警察、小売業者、社会をつなぐ要
- 万引問題に関する情報の発信

6 万引き問題の解決に今必要なこと・・・当機構が目指すもの

自助、公助、共助の機能強化と相互の連携充実により、「万引は酒酔い運転と同じ、人間として恥ずかしい行いで、刑事的制裁以上の社会的制裁を受ける行為」との万引羞恥

心の普遍的醸成。小売業者には、万引をさせない努力を講じることが社会的責任でもあるとの考え方の普及。

- 小売店の自助努力の充実
 - ・ 大手小売店の業種ごとの万引実態に即した取組み改善
 - ・ 中小小売店での本格的取り組みの促進、これを支援する地域ボランティアの拡充
 - ・ 小売店相互の情報交換の活性化や顔認証システムの適切な活用による万引常習者の万引防止
- 警察の検挙活動の充実強化
 - ・ 組織的万引を早期に把握して摘発強化。そのため、当機構等が小売店の持つ情報を集約分析して関係警察に対応を促す
- 刑事処分の厳正さ確保
 - ・ 検挙被疑者の過去の万引歴を証拠化して検察に知らせる方途の検討
 - ・ 犯罪被害者通知制度の活用
- 万引犯の立ち直り支援
 - ・ 病的な万引犯の立ち直り支援の NPO との連携
 - ・ 万引少年、高齢者万引犯への新たな対応策の検討、実施

当機構は、一つの有力な公助機関として、被害者と警察等とのつなぎ役をこれまで以上に果たし、上記対策の実施機関に脱皮を図るとともに、万引き情報の発信機能を強化する。

- 万引問題の解決をあきらめないシンボル
- 万引情報の社会への発信源・万引被害者の声を伝える
- 万引に悩む小売業者のサポーター
- 組織的犯罪、常習者等に関する被害情報の収集分析と被害者間での迅速な共有を可能にするシステム開発
- 顔認証システムの適切な活用を促進